

1	審議会名	令和4年度 第1回安曇野市子ども・子育て会議
2	日 時	令和4年7月1日(金) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎3階 全員協議会室
4	出席者	中島委員、酒井委員、小宮山委員、岩下委員、伊藤委員、大澤(克)委員、森岡委員、平沢委員、宮澤委員、大澤(美)委員、赤沼委員、鎌田委員、永原委員
5	市側出席者	橋渡教育長、矢口教育部長、西澤子ども家庭支援課長、太田学校教育課長、佐々木こども園幼稚園課長、竹内こども園幼稚園課長補佐、山田教育総務係長、中村学校教育担当係長、白井教育指導室長、市川健康支援担当係長、橋詰健康推進担当係長、遠藤児童青少年係長、三好子ども発達支援相談室長、矢口子ども家庭相談担当係長、白井子育て給付係長、山岸子ども子育て政策係長、岡里子ども子育て政策係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和4年7月4日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付
- 3 会長あいさつ
- 4 教育長あいさつ
- 5 自己紹介
- 6 会議事項
  - (1) 子ども子育て支援事業計画に係る令和3年度実績報告について
  - (2) 子ども子育て支援事業計画の中間見直しについて
- 7 その他
  - (1) 今後の予定について
  - (2) 安曇野市教育大綱の改定について
- 8 閉会

II 協議概要

1 開 会

2 委嘱書交付

3 会長あいさつ

自然豊かな安曇野市で、子どもたちが元気に育ち、子育てが安心できるよう何かお手伝いができればと思っています。皆様方の協力のもと進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

4 教育長あいさつ

本日は、安曇野市子ども・子育て会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、それぞれの組織団体の皆様におかれましては、本当に日頃から安曇野市の教育行政等に多大なご理解

ご協力を賜りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、安曇野市は本年4月から組織改編がございまして、子ども・子育てに関する支援業務等が、教育部に統合となりました。これまで、こども園幼稚園に関わる部門は福祉部で担っていたわけですが、それらと、小学校中学校を含めて全てが教育部に一括されたということでございます。

以前からの委員を務めておられる皆様方は、今日この場で私がお挨拶するのは初めてですから、どういふことかなと思われたかもしれませんけれども、教育委員会事務局がすべて統括することになりましたので、この会議も私が統括責任者ということで、今ご挨拶させていただいているところでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、先ほど中島会長様からお挨拶もございましたように、コロナもまだまだ収束が見えないような状況でございます。また、原油価格や物価の高騰など、子育てをする家庭の皆様にとっては大変に厳しい状況にあるところでございます。

市としましてもこの状況に何とか支援申し上げたいということで、子育て世帯の皆様方に、基準を設けた中ではございますが、国の生活支援特別給付金の5万円にさらに市から5万円を上乗せして給付させていただくという事業を6月から実施しているところでございます。

引き続き、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに尽力してまいりたいと思っております。

本日の会議におきましては、市が計画して展開しております子育て支援事業の進捗状況についてご報告を申し上げます。これからの子育て支援政策についてご検討いただくわけでございます。

委員の皆様方には、未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境をつくっていくため、様々な視点で忌憚のないご意見をいただければと思っております。

以上でご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

## 5 自己紹介

### 【事務局】

委員の皆様との交代があり、また事務局もこの4月から組織改編による異動等ございましたので、自己紹介を行いたいと思います。

(委員および事務局にて自己紹介)

## 6 会議事項

### 【事務局】

この後の議事進行につきましては、子ども・子育て会議条例第7条第1項の規定により、中島会長にお願ひいたします。

### 【会長】

お手元の会議次第に沿って進行させていただきたいと思っておりますので、皆様の協力をよろしくお願ひいたします。まず、会議事項(1)支援事業計画に係る令和3年度実績報告等について、事業概要とこの会議の意義を事務局より説明をお願いします。

### (1) 子ども子育て支援事業計画に係る令和3年度実績報告について

資料1

### 【事務局】

(事業概要と、会議の意義について説明。)

**【会長】**

続きまして、令和3年度事業報告をお願いします。資料1の安曇野市子ども・子育て支援事業計画における令和3年度事業報告、1の「幼児期の教育保育」について担当者より説明をお願いいたします。

**■1 「幼児期の教育・保育」について**

**【事務局】**

資料1に基づき説明。

**【会長】**

ありがとうございました。説明のありました幼児期の教育保育について、委員の皆様何か質問等ご意見ありますでしょうか。

(質問等意見なし)

**■2 「地域子ども・子育て支援事業」について**

**【会長】**

続きまして、資料1の2「地域子ども・子育て支援事業」の実績報告について、各担当者より説明をお願いします。

**【事務局】**

資料1に基づき、以下の事業について事務局各担当者より説明。

**【会長】**

ありがとうございました。説明のありました13事業について、各委員の皆様からの質問、意見等を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【A委員】**

現場は、保育士の人数が不足しているというのは実情としてあります。本当に保護者の方を支えたいところではあるのですが、自分たちも倒れそうなくらいの状況であります。

特別な支援が必要な子どもたちが増えているということもあります。その支援の方法もその子その子によって違うということもあります。それに加えて保護者の方もいろんなご事情を抱えている方が非常に増えているなどということを感じています。長時間保育もかなり大変な状態であるのが現状です。

**【B委員】**

保育士不足や特別な支援が必要な子が増えていることは、コロナよりも浸透している深刻な問題でして、どこで聞いても保育士が足りないということを聞きます。予算の関係もあるのかもしれないですが、保育士がなぜ足りなくなってしまうのか、辞めてしまうからか、募集しても来ないのか、現状を教えてください。

また、特別な支援が必要であるというお墨付きがついた子には補助もあるのですが、言い方がすごく嫌いなのですが白黒はっきりしない「グレーゾーン」に位置する子どもがすごく増えていて、「この子は支援が必要です」と明確な診断がされた子よりも、明確な診断がされてないがその傾向がある子が増えています。

認可外保育施設でそういったお子さんが来ると、どこからも補助がもらえず、人件費が施設の持ち出しにな

り、明確な診断を受けていないと加配をつけられないこともあります。でもお母さんたちに言っても「うちの子は違います」という声が出ることもあり、なかなか難しい部分があります。その辺が現場では手がかかってしまいます。放っておくわけにいかないのに、安全を守るためには労力がかかってしまうということが現状で、その辺がどうやって改善したらいいのか、頭を抱えている一番の問題です。

#### 【事務局】

確かに保育士が不足していることは事実ですが、市では「お金がないから雇わない」ということはありません。安曇野市だけではなく、全国的に保育士不足は問題となっております。私達もいろいろな相談会に行つて確保しようとしていまして、随時採用するような努力もして、なんとかやりくりをしている状況です。

特別な支援が必要なお子さんは、確かに年々増えていると思います。病気を持っているお子さんもいますし、愛着の関係で注目を浴びたいという子や、先生を独り占めしたいという子など、いろいろなお子さんがいます。そういったお子さんに、しっかり丁寧に関わることが必要だと思っています。

保護者さんを交えてしっかり話し合っていけるような関係作りもしたいと思っています。

#### 【C委員】

私の園は私立で、28年度の開園だったのですが、当初は辞める先生が多かったです。

どうしたらいいか毎年悩みの種でした。以前は30人を1人で保育するのは当たり前前の時代だったのですが、今は、やはり以前と比べてとても難しい状況だと思います。未満児に対して3対1の保育士数での保育、1歳以上の子に6対1での保育士数での保育という国基準の配置では、到底人が足りないと思います。

現状では、本当に大変なお子さんが多くて、6人を1人で見るということは、支援が必要なお子さんがいらっしやる中で、もし何かあったら命を預かっている者としていつもドキドキ、ヒヤヒヤしている状態です。

そういったこともあったので私の園では、各学年1クラスに対して複数担任にしました。担任を2名ずつ、パートの先生を入れたりすることで加配して運営しております。また、3年前からメンターという制度を取り入れて、先生たちの悩みを年3回聞いています。最後に園長が聞くという方法です。話しやすい人に聞いてもらうという形でこの3年間やってきました。そうすると、離職率がずいぶん下がりました。去年一昨年から辞める先生はいません。

ただし、やはり人件費が非常にかさんでいます。お子さんをよりしっかり見て、良い保育園にしていくには、人件費を市や国で補助していただけると大変ありがたいと思います。

#### 【事務局】

健康推進課の検診を受けて、心配なことを少しでも早く見つけて早く療育に繋げていければということ、子ども発達支援相談室では、0歳児から18歳までの療育支援をさせていただいているという状況です。発達障害の診断は受けてはいないけれど、特別な支援が必要なのではないかと思われるお子さんを含めて、令和3年度で延べ1200件余りの相談が寄せられているというのが現状であります。

療育に関しては少しでも早くということ、私達も一生懸命に、臨床心理士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・こども相談員・保育士等の専門の職員が当たっているという現状であります。安曇野市としても、少しずつでも子どもたちのよりよい育ちを願いながら関わらせていただいています。

#### 【D委員】

保護者の立場からご意見いたします。私の子が保育園に通っている年中の終わりあたりから、小学校に入学

するにあたって、この子が周りと同じようにやっけていけるかなって心配になった時期がありました。他のお友達や先生と話が合わなくなったと言われる時期があって、市でもこういう支援がありますよと提案いただいて、お受けになるときはまた言ってくださいと言われてたこともありました。

当時から「グレー」という言葉が気になっていて、普段自分の子どもしか見ていないから、このぐらいの時期の発達のはたして普通なのかということがわからなかったです。保育園の先生は何年も見てくださっているので、「先生のプロとしての目を見て、支援や発達テストを受けた方がよければ早めに言ってください」と、当時私は先生にお願いしました。

自分の子どもに親から、「この子おかしい」とはやはり言えなくて、決断に勇気が必要です。そこでプロの人から見てもらって、「早めに受けた方がいい」と言われた方がすごく楽だなと思いました。

早いうちがいいかなと思って、私は年中の終わりくらいに発達テストを受けさせてもらって、判定が少し出てきてはいました。

当時の先生は、「私は全員にこのテストを受けさせたいぐらいだ」と言っていました。

文章で結果が返ってきたときに、この子はこういうところが困っていたんだ、ということが目に見えて、先生も注意して見てくださるようになりまし、親として家で関わる時にもこの子にはこういうことに気をつけてあげると、これからはもうちょっと伸びていくのだからって思えたので、そこで初めてしっかりテストをやる意義が理解できて、やっぱり早めの方がいいなと納得できました。

現場の先生は大変ですけども、人件費のことも聞いて、しっかり診断がされてないと人件費が下りてこないということも含めて知ったので、一步を踏み出せないでいる保護者の方もいると思うので、必要だったらお声がけいただけると迷っているときに助かるのではないかなと思いました。

3歳まではしっかり検診が受けられますが、検診から発達テストを受けたときまでの間に何か検査があれば、もうちょっと早くこの発達について必要な手を差し伸べてあげられたんじゃないかと思いました。そこまで細かくはできないのかもしれないけど、何かあればいいなということはずごく思いました。

#### 【会長】

自分の子どもが良い方向に向かっていけるようにとプラス思考で保護者が考えていただけると、保育園側も検査を推したかがあると思いますが、中には「なんでうちの子にそんなレッテルを貼るんだ」というように受け入れてくれない人もいたりするところが、保育現場ではジレンマがあるのではというように思います。

#### 【事務局】

子ども発達支援相談室では、巡回訪問をさせていただいております。その巡回訪問は、今年度は5月半ばで既に60件を超えているという状況で、令和3年度では700件を超えていたと思います。

保育士の先生方も園だけで悩むことのないように、保護者の皆様にもお子さんの様子をしっかりとお伝えできるように巡回訪問をさせていただき、今は保護者の方との懇談も入れたりしながら一緒に子育てについて考えたり、よりよい方向にどう進めていったらいいのかというところのアドバイスをさせていただいています。

また、必要に応じて新版K式発達検査やWISC-IV知能検査等の発達検査も行わせていただいています。少しでも悩む方が減ればいいと思いますし、保育士の先生の悩みも少しでも解決に近づければいいなというふうには思っているところであります。

#### 【B委員】

先月、私の認可外の園の安曇野市に住んでいるお子さんについて、巡回をお願いして来ていただきました。

お母さんたちにも直接話を聞きますかと伺ったところ、「ぜひ聞きたい」ということで、とても良い方向に進んでいって、今度ちゃんとチェックしてもらおうことになったということがありました。

「普通ってなんだろう」と考えたとき、保育士の中でも普通という基準がまちまちであって、昔の考えで「こういう子はよく今までもいたよね」という考えで片付けてしまうと、普通の域に入ってしまう。普通という基準がないんですね。巡回していただいて、何かの基準を作らないとその見極めが難しくて手遅れになってしまうので、とても巡回していただいてよかったなと思いました。

「周りの子と同じ」というのもキーワードとしてあって、保育指針が変わって自主性を重んじるということになり、「自主性を重んじる」とことと「周りと同じことをする」というのは、とても裏腹な部分がありまして、その辺は昔の保育指針でやってきた保育士は勉強し直さなきゃいけないと考えて研修を受けたりしています。

発達チェックは、そういった子だけが受けるから、「えっ、うちの子が」となってしまうので、どこかの市で全員受けているというところがあったかと思いますが、何歳児健診かで発達チェックを全員が受けられるようになれば、「うちの子だけチェックがあった」ということもないですし、それが実現したら素晴らしいなと思ったことがあります。

#### 【会長】

3歳児健診の時に発達チェックはありますよね。その後のフォローも多分されているのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 【事務局】

安曇野市の検診体制は、3歳児健診が終了になって最後になりますので、フォロー体制としては個別の相談が主になってきます。できるだけその3歳で見逃さないようにしているところなのですが、園の先生から事前に少し情報をいただいて、ご助言いただきますと検診の場面でも保健師がしっかりお話ができるところがあるかなと思います。実際、健診の中ですと、一対一の個の発達チェックになるので、集団の中で気になる子も、発達チェックをクリアできてしまう場合もあります。そのため、お母さん自身もあまり問題意識がその場で持てなかったり、なかなか園での困り感が検診に反映できにくい場面も実際のところはあったりするかなというところを感じています。

ただ、園と子ども発達支援相談室と健康推進課で連携することで、支援できる子が増えてくるとと思いますし、お母さんへのきめ細やかなフォロー体制が整っていくかと思うので、3者で協力していくことが必要なのではないかと感じています。

#### 【E委員】

私は、自分の子どもの発達が気になって自ら相談しまして、子ども3人中3人とも保育園で相談させていただきました。

一番上の子は2歳児から保育園に入れたのですが、そのときは全然喋らなくて、先生に相談したら、「市に相談してみるから」と言っていたら、安曇野市から相談しに来てくれたということがありました。

それで、今も小学校では支援学級に通いながら、普通の通常学級にも通っている「通級」という形で学校に通っています。

真ん中の子は、保育園の先生から「ちょっとあれって思うことがあるから、ちょっと市に相談してみるね」ということを言っていたら、相談して、その子は病院に行きました。発達のことで病名をもらい、その子も通級しています。

今現在、年長の子は、気になるほどではないんですけど元々人見知りで、激しい人見知りがあったので、今後小学校に上がれば、違う子たちと一緒にになるので、そこで黙り込んでしまうと困っちゃうかなって思って、現在相談をしています。

私としては安曇野市にとっても感謝していますし、保育士さんにも本当にすごくよく見てくれて、こんなに保育士不足だって言われている中で、感謝しても感謝しきれないです。

さっきの発達検査も保育園のときも、小学校のときもやっているの、どこか全員、何か受けられれば確かにいいのかなって思いました。私の子も、その発達検査での助言があって、上の子たちは成長している気がしているので、発達検査の助言が私にとってとても勉強になりましたので、できたら、どこかの機会全員受けることができれば、いいのかもしれないと思いました。

#### 【会長】

現場の忙しい中でも保育士が頑張っていることに対して、このように感謝の言葉を返していただけると、頑張ろうかなという気持ちに繋がるのではないかなというふうに思います。

#### 【F委員】

勉強のために聞かせていただきたいのですが、先ほど保育士が辞められて人数が少ないということや人件費のお話がありましたが、今いる保育士に負荷がかかってしまうと思うので、二つ質問させていただきたいです。

一つ目は、保育士の時間管理はどのようにされているのか、残業時間などはどうやって管理しているのかということです。

二つ目は、辞められる理由というのはどういった形で拾われているのか、ということです。辞められる理由の中に課題が潜んでいると思います。

時間管理と辞める理由というところの2点をもし把握されているのであれば教えていただきたいです。

#### 【事務局】

出退勤は、市役所ではカードリーダーで管理しているのですが、園にはカードリーダーがないものですから、旧式ですが、朝来た時間を名簿に記入するようにしています。

残業は園長に申請をして、本庁舎に情報が上がってくるようになっていきます。働き方改革ということもあるので、残業申請はしっかりするようにということを周知しております。

離職については、確かに毎年何人かはお辞めになっていく方もいますし、年度途中でやめられる方もいます。ご家庭の事情があったり、病気だったり、人間関係ということも聞いたりはするのですが、保育士が嫌だという方はいません。小規模園の新規開設によってそちらに流れている方や、違う仕事をしたいという方もいます。

#### 【F委員】

辞められる理由を聞かれるのは園長先生経由ということでしょうか。

#### 【事務局】

園長経由も多いですが、直接話を聞いていただけませんかということで、こちらの方に来る先生もおります。

#### 【F委員】

ありがとうございます。会議のお話を聞いていると、保育士さんが現場を一番支えている方なのかなと思います。

ました。これは意見なのですが、事業計画の基本目標 4 に「子育てを支える環境作り」とあるのですが、保育士さんに対しての施策みたいものが見つけられなかったので、そういった計画を入れていただけると、保育士さんも自分のために何か目標をもって市は動いてくれていると感じられるのかなと思いました。

#### 【事務局】

公立園の時間管理につきましては、今年から ICT 化を行いまして、自動で認識するような形をとり、しっかりと管理をしていきたいと考えています。

#### 【G 委員】

保育士不足という点ですが、大きな話になってしまうかもしれませんが、これからの少子化と高齢化というこの先の時代を考えたときに、高齢者が地域の中で活躍して元気に年をとっていかう、介護予防に繋げていかう、そういったことを目的とした取り組みとして、保育士そのものを増やすことと並行して、保育所をサポートする「地域の担い手」「地域の力」そういったものを現場にどんどん投入していくという取り組みや視点も重要と思っております。

例えばコミュニティスクール・学校との連携というところでは、地域の方がどんどん学校の運営に参加するために、その繋ぎを社協が一部担っていくという役割を持っています。その一環で、市から受託して社協で実施している「老人大学」という高齢者の大学があるのですが、この老人大学の分校を、学校の中に作ってみようということを今、検討・計画中です。

老人大学の皆さんは、普段は 1ヶ所で集まって勉強して受講しているのですが、地域の学校を会場としてお借りすることを検討中です。学校に地域の方が出入りしたり、地域の方が学校を利用したりすることで、自然と子どもも大人も交流が生まれます。また、そこに通う地域の高齢者の方は学校に行くことで、生きがいややりがいが増えて、双方にメリットが大きいと思います。それが「地域で子どもを育てる」という環境作りだと思っています。

こういった考え方を、保育園や幼稚園といった現場にも活用することで、保育士の不足に対して地域で支えることができると思います。「地域にこんな元気な高齢者がいっぱいいるじゃないか、そういった方々にちょっと入ってもらおうよ」という考えで、保育士の仕事の仕方がまた変わってくると思います。

社協ではボランティアセンターを構えているので、相談していただければ一緒に考えていけると思いました。

#### 【会長】

お互いが生きがいを持ってできるというところでメリットがあるのかなと思います。その他ご意見いかがでしょうか。

#### 【H 委員】

未満児のニーズは増えている一方で、人口自体が減っているというところで、小規模の保育所は必要に応じて、必要最低限には設置しなくてはいけないというところですが、当然そこでは雇用も生まれるのかなと考えているところです。「3歳や4歳になったときに自分が希望する保育所に預けたいから未満児のうちに預ける」という声も聞きますので、この小規模の設置に当たっても地域性等を考え、どこに誘致すべきかを考えていく必要はあるかなと思っています。

日本全体で人口が減っていて、少子化が起きていて、ふるさと納税もそうですが、「人やお金の奪い合い」のようになってきていると思っております。実際、明石市は子どもや福祉の分野にどんどんお金を投資して力を



入れています。最終的にその子どもたちが成人して社会人になって、その市に帰ってこないとお金としてはペイできないのかなとは思っているところです。

確かに子どもたちや親向けのお金は当然あると助かるかなと思うのですが、働いている先生たちに何かしら投資をして、元気に一生懸命働いてもらえるってような状況作りというのが必要かと思います。

保育士の奪い合いという形にはなってしまうのかもしれないですが、保育士資格を取得できる大学等教育機関に売り込んで、先生たちにはぜひ安曇野市で働いてもらいたい、ずっと勤めてもらいたい、という広報もしていただくと、保育幼稚園の雇用関係がずっと続いていけるのかなと思います。

また、「大きくなったら先生みたいになりたいな」といった夢を持ってくださるような子どもが増えれば、より波及効果があっていいのかなと思ったところであります。安心・安全に働ける職場作り、それが続いていけるような政策があるといいかなと思います。

#### 【会長】

ありがとうございました。今までのところで他にご意見ありますでしょうか。

保育士の働き方や、お子さんの発達のことなど、いろんな意見が出てきました。

事務局の方でも意見を踏まえていただいて事業の実施をしていただければと思います。

#### (2) 子ども子育て支援事業計画の中間見直しについて

##### 【会長】

続きまして、会議事項(2)の「子ども・子育て支援事業計画の見直しについて」に移りたいと思いますので、事務局の方から趣旨説明をお願いいたします。

##### 【事務局】

資料2におよび参考資料に基づき概要を説明。

##### 【会長】

では続きまして、各事業担当より、子ども子育て支援事業計画の見直しの要否について説明をお願いします。

##### 【事務局】

資料2に基づき各事業担当より説明。

##### 【会長】

説明がありました事業について委員さんの方から何か質問意見等ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

##### 【B委員】

病児病後児保育のことですが、今実際日赤で行えないってということで、これからどういうふうな形で、対応していくかっていう計画はありますか。

##### 【事務局】

コロナ前でも400人の方がご利用になったということですから、同様にしていくためにこれからしっかり

検討させていただくという今段階にありますので、今時点では詳細を申し上げられない段階でございます。

**【B 委員】**

なるべく早めに検討して、実行に移していただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

**【会長】**

他にどなたかご意見ありますでしょうか。

**【I 委員】**

民生委員の関係で、私の地区では、コロナが少し収束しているときには園に訪問したりしていました。

園長から、どういうところに手が足りないかというようなお話も聞いたりしていて、そのとき園長先生方から「保育は4月が一番大変なんだよね」というようなお話をいただきました。

令和3年4月に向けて民生委員として何かできないかということで、冬の間から園長先生方と相談をして、「子どもが外に飛び出してしまうと困るから門番があったらいいな」とか「泣いている赤ちゃんをだっこしてくれると安心感が出るな」という話を聞いていました。そこで、4月の入園式翌日からしばらくの間、ある2園の園長先生方から積極的に受け入れてくださるということとなりました。4月になったら、園に伺う話をずっと詰めていました。

たまたまコロナの関係で全くそれも行けなくなり話も頓挫してしまいましたが、このように私達民生委員のボランティアでも受け入れてくれる計画がありました。受け入れてくれることはとても嬉しいことで、他の民生委員もぜひ参加しますと言っていました。

また、機会があったらお声をかけながら密接に保育園と交流していこうと今もまた考えています。

**【J 委員】**

私は子どもが3人いて、今、上の子が小学校4年生で、真ん中が小学校2年生で、一番下が年長です。

ちょうど一番下の子が年少に入ったときは、コロナが蔓延して、保護者が園の中に入れないという状況でした。その子が年長になった今、やっと少しコロナが落ち着いてきてくれて、感染者もある程度落ち着いてきて、参観日を行ってもらえているということがとても嬉しいです。

子どもたちの様子をしっかり見られるということができる状況になってきて、家庭での子育てのことも担任の先生や園長先生に相談できて、とてもありがたいし、助かっているという状況です。

今回、保育士不足ということを知って、先生たちを見ていると本当に大変だなというのは保護者として毎日見ていると思います。働いている親からすると、本当にとってもありがたく、日々感謝しかありません。

発達のことに関しては、私も真ん中の子がとても食が細く家でも困っていて、園の様子も先生から教えてもらっていて、身長や体重の増加も一時期止まったような状況もあって園長先生にも相談しました。まずは小児科の先生に相談すべきかもしれないと思い、園長先生にお話ししたら、「お母さんがそう思っているならまず動いた方がいいよ」とそっと背中を押してもらえました。実際病院に受診して、今は元気に日々過ごしています。

先生たちの日々のお仕事も大変で、なおかつ個々の子どもたちの様子も見て、いろんな状況の保護者の方もいて、本当に日々先生たちは大変なんだろうなというのは思います。日々本当に感謝しています。

**【会長】**

ありがとうございます。そういうふうにご感謝の言葉をもらうとやりがいに繋がるのかなと思います。

## 【K委員】

私は、初めてこの会議に出させていただいて、こんなに活発な会なのかと圧倒されておりますけれども、先ほどから保護者の皆様から嬉しいお言葉も聞けてありがたいなと思っています。

保育士の仕事は少し前よりも専門性を求められています。先生たちも勉強していて、保育士の質も昔より本当に高まっているのだろうというように思っています。

その分学びもしていかなきゃいけないので、職員は大変ながらも、保護者の方と向き合いながら日々保育にあたっています。このコロナの影響でできていない行事が増えたりするなか、子どもの育ちにとって本当に大事なものは何かということを見直すきっかけにもなりました。

参観日で、集団の中の我が子を見て、友達の中でどう自分の子が動くか、心がどう動くかを見るのは本当に大事なのだなというのを改めて感じました。今はだんだんと人数を絞ったり、学年ごとにしたりというふうに少しずつ行えるようになってきています。子どもにとって本当に必要な行事や保護者にとって大事な行事というものを、見直せる機会になったかなと思っています。そういうことを現場は考えております。

発達の面だけではなく、愛着という面も大事と思っています。保護者の皆様は、お仕事と子育てと家事と奮闘しながら一生懸命やっていて、頑張っておられる方が多いなと思っています。「幼稚園に自分の子どもを預けて、初めて洗濯物を干しているという実感を持って洗濯物を干せました」とおっしゃるお母さんもおりました。お洗濯一つ干すのも、子どもを見ながらいろんなことに気を配りながら行っていて、本当に子育てって本当に大変なことだと思います。ですが、子どもを育てていくことの楽しさというものもその分あるので、保護者の方やお母さんお父さんに楽しさを感じていただけるといいなというふうに日々、現場で話をしています。

一つお伺いしたいと思ったことがありまして、妊婦健康検診や乳児家庭全戸訪問事業は具体的にどんなことをされているのかな、というところを伺いたいです。子育ては一步間違えると孤立してしまう、我が子と向かい合って孤立してしまうという危険もあると思っています。お母さんたちのフォローや相談できる人がいればいるほど、子育ては少しゆとりができると思っています。幼稚園ではお父さん達が育休を取っておられる方も多くて、これは家族のあり方もあるので取ればいいということではないこともわかっているのですが、お父さんの御力もすごく大事だなと思っています。お父さんが子育てにどれだけ向き合うかというのは、子どもが生まれてからもそうですが、妊婦や結婚した後など、そういうところでいくらかでも向き合える機会があるのではないかなと思っています。そういうところでどれだけ働きかけていけるかが大事だと思います。

乳児家庭全戸訪問事業、その後のフォロー、こども園や幼稚園への入園、というように0歳から18歳までを一律して子どもに向き合える安曇野市であると良いと思うので、そこをお伺いしたいと思います。

## 【事務局】

まず妊婦健康診査ですが、母子子育て相談窓口にはほとんどの方が妊娠届出書を持ってきますので、そこで妊娠中に何を困っているかということアンケートに書いていただいて、まずこれから出産に向けてどういう制度があるか、産後にどういった事業があるかということをお窓口に丁寧にお伝えしています。母子手帳交付するための30分ほどの間で、市の事業を説明できる範囲で丁寧にお伝えをしております。

出生届を出した後の全戸訪問について、は担当の市川からご説明します。

## 【事務局】

出生届を出した後に、子どもの全戸訪問があります。

乳児全家庭全戸訪問の関係なのですが、資料1にも記載されていますけれども、健康推進課の保健師が対応するケースと、在宅助産師さんに依頼している部分とあります。先ほどお話のありました妊娠届の提出のとき

に、ハイリスクや要支援が必要なお母さんには、地区担当の保健師が妊娠中から妊婦訪問を実施しています。その流れで産後は乳児家庭全戸訪問に繋がって、この訪問の中で、特に心配のない経産婦さん等は、在宅助産師に身長体重を計っていただいたり、一般的な育児相談を約一時間の中でやっていただいたりしています。

支援の必要なお母さんには、保健師が生活の状況や精神的な部分のフォローをしながらきめ細やかな訪問を行うようにしています。1回で訪問が終わらない場合は、その後再訪問をしたり、その後の保健センターの育児相談に繋がったり、育児教室や4ヶ月健診でフォロー体制を整えながら継続的に経過を見守っている状況です。

#### 【K委員】

家庭に訪問するときに、お父さんや家族が立ち会うことはどのくらいの率でありますか。

#### 【事務局】

コロナ禍で在宅ワークも増えてきたところもあって、コロナ感染拡大後の方が、お父さんが家にいてくださる家庭が多いかなというところが実感ではありますが、コロナの感染拡大が落ち着き、普通に戻っていかれると、お母さんやおばあちゃんたちが立ち会う家庭が多くを占めるのかなというような感じもしています。

#### 【L委員】

子育てをしている一人の父親としての意見です。私の子どもは児童館にお世話になっているのですが、児童館のことを知らない人も多いです。キッズパークやいろいろなイベントがあるのですが、周りの人はみんな知らなくて、そのようなイベントをもっと周知すれば、そういう集まりに触れる人も多くなるのではないかなということも思います。

周りの育休をとっている人に聞くと、ママ向けの子育てサポートは、参加する人はママが大半だから行きづらいという人が多くて、パパ向けの講座があればパパさんが行きやすい環境が作れて、そこで意見交換もできて、横の繋がりもできるのではないかなとも思います。

周りに保育士の友達が多いのですが、結構辞めてしまっています。理由を聞くと、子どもは本当に好きだけど、給料が少ないということが一番ネックのようです。命を預かっている場所ですし、だからこそ毎日一生懸命やっているのですが、それに比べると給料も断然少なくて、好きという気持ちだけでは続けられないという人も多くて、仕事が終わらなくて家に持ち込みで仕事している人も多くて、負担になっていると思います。

お金の面なのですぐどうこうできることではないと思うのですが、タイムカードを押すようになるという話だったので、働き方改革でそういうところが解消できれば働きたいって人も増えると思いますし、またやってみようかなという人も現れると思うので、これから検討していただければいいなと思います。

私は半年育休をとったのですが、子育て中の友達に聞くと、パパに育休を取ってもらいたいけどお金の面が不安で取れないという人や、子どもが欲しいけど子どもを産んだら家庭が回らなくなるから子どもを産むのをためらっている人が周りにいます。育休もお金に関わることなのでなんとも言えないですが、市として育休をとったときの補助等があればもっと取りやすい環境になると思いますし、補助があれば自然と安曇野市にも移住して安曇野市で子育てしたいという人も増えてくるのではないかなと思います。

そういうところをこれから検討材料としてみんなで挙げていただければと思います。

#### 【会長】

貴重なご意見ありがとうございました。議事に戻しますけれども、今回、令和4年度の子育て支援事業計画の見直しは事務局の説明からも行わないということで、それについてはご意見がありませんでしたので、見直

しは行わないということで承認したいと思いますので、よろしく願います。

他には、各委員さんからいろんなご意見をいただいておりますので、ぜひ反映できるようにお願いできればと思っております。議事については終わりましたので、事務局にお返しいたします。ありがとうございました。

#### 【事務局】

会長から、たくさんの委員の皆さんの意見を吸い上げていただいて、大変勉強になりまして、今から今後の事業の参考にぜひさせていただきたいと思っております。

### 7 その他

#### 【事務局】

安曇野市子ども・子育て会議の委員の改選についてお知らせいたします。

本年10月14日をもって現在の委員の皆様の任期が満了になります。

委員の皆様におかれましては、各団体からの推薦や、公募いただいた方々、事務局からお声がけをさせていただいた方々など、選任方法はそれぞれ異なりますが個々に委任させていただいております。

昨年は、新型コロナウイルスの影響により十分な会議の開催ができませんでした。ただ本日は子育て中の方をはじめ、それぞれの立場の方の生のお声を聞かせていただき大変参考となりました。ありがとうございました。

安曇野市子ども子育て支援事業に対して、日頃からご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

次の委員の選任につきましては、後日各団体にお声がけをさせていただいたり、公募を行ったり、ご相談させていただくこともあるかと思いますが、その際は何卒よろしく願います。

#### 【事務局】

続いて、安曇野市教育大綱の改定について説明いたします。

(安曇野市教育大綱の改定について資料のとおり説明)

#### 【G委員】

社会情勢の変化に合わせてこういったものを改正していくということで、基本方針のところ、福祉教育の位置付け、つまるところは地域作りにつながっていくところが大きいと思います。

これからの地域作りにおいては、配慮が必要なお子さんもいらっしゃいますし、いろんな方がいます。そういった方々をお互いに認め合って心豊かに生きていける共生の地域作りが重要で、その地域作りに向けた福祉教育の充実という視点が、これからは必要という気がしました。

#### 【事務局】

検討させていただきます。ありがとうございました。その他にも、学校教育課にご意見いただければ参考にさせていただきますので、よろしく願います。本日は貴重なお時間いただきましてありがとうございました。

### 8 閉会